

卒業論文の要旨

論文題目	モンゴル語自然会話における反応を表す表現に関する考察 —モンゴル語の За(Za) と Аанхаан(Aanhaan) の使用に着目して—
氏名	バヤルト オド ツオルモン
メジャー	日本語教育
(要旨)	
<p>日本語の「はい」や「うん」と同様にモンゴル語にも応答する際に使用される応答詞が複数ある。モンゴル語の За(Za)と Аанхаан (Aanhaan)は、一般的に、「同意を表す応答詞」として知られ、先行研究では、それぞれ日本語の「はい」や「うん」に当たるとされている。しかし、これらの使用は、これまで、モンゴル語の自然会話においては、詳しい研究がなされてこなかった。特に、Аанхаан (Aanhaan)の使用については、筆者の知る限り、その意味・機能に関する研究は非常に少ない。そこで、本研究では、モンゴル語の自然会話をデータとして、そこに現れる За(Za)と Аанхаан (Aanhaan)の使用に焦点を当てて、その意味・機能について分析、考察を行なった。データ分析の結果、これまで先行研究で頻繁に取り上げられてきた За(Za)は、自然会話においてはその使用頻度が低く、逆に先行研究で注目を浴びることの少なかった Аанхаан (Aanhaan)の使用頻度が圧倒的に高いということがわかった。そして、За(Za)と Аанхаан (Aanhaan)のそれぞれの使用において、自然会話の中での特徴的な機能、役割があることがわかった。</p>	
【キーワード】 モンゴル語、応答詞、間投詞、 За(Za) 、 Аанхаан(Aanhaan)	
(指導教員の推薦のコメント)	
<p>日常会話における応答詞の研究は、英語、日本語をはじめ様々な言語で盛んに行われてきました。しかし、モンゴル語においては自然会話の研究そのものが皆無に等しいのが現状です。ツオルモンさんの卒業論文では、モンゴル語の自然会話を録音、書き起こしてデータ化し、そこから応答表現の振る舞いについて、質的に考察した貴重な内容となっています。</p> <p>また、モンゴルは、アジア地域の中でも、人口比日本語学習率が高い国の一つとして知られています。モンゴル語を母語とする日本語学習者の学習傾向や特徴を知るためには、モンゴル語研究は欠かせません。そういった意味でも、ツオルモンさんの研究は、新たな視座からモンゴル語を捉え、言語研究、言語教育の現場に還元していける成果を示してくれているのではないかと思います。</p>	

